複製 複写 不許

資源植物事典

定価 15450 円
（本体 15000 円）

昭和 24 年 12 月 20 日 初版発行
昭和 27 年 6 月 25 日 再版発行
昭和 32 年 5 月 25 日 三版発行（増補改訂版）
昭和 33 年 2 月 28 日 四版発行（増補改訂版）
昭和 33 年 5 月 15 日 五版発行（増補改訂版）
昭和 36 年 12 月 20 日 六版発行（増補改訂版）
平成元年 10 月 31 日 七版発行（増補改訂版）

編者 柴田桂太

東京都千代田区神田錦町 3ノ21
発行者 福田元次郎

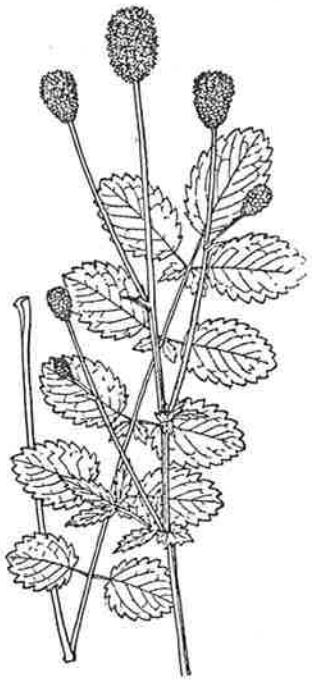
東京都新宿区市谷本村町 3ノ29
印刷所 新日本印刷株式会社

発行所 東京都千代田区神田錦町 3ノ21 株式会社 北隆館
電話東京 (291) 3854

凸版印刷株式会社製本

から注意を要する．時に促成栽培も行われ別府附近では溫泉の熱をこれに利用するという．根莖は打ちくだいて繩とする．またワラビ粉は根莖を水中で搗き碎いて，器底に沈澱させた澱粉であつて，精製しないものは，根莖の細粉を混じ，多少褐色である．澱粉粒は長圓形，不整圓形などで大小不同で平均徑約40 μ，食用に供し，また糊料とするが，生產費の關係から高價である．ワラビ粉は古來救荒食料として聞え，その製法も詳しく記され，「わらび餅」に作り，或は米，麥，雜穀，豆のひきわり，蕎麥，青菜，リョウブの葉などを加え團子にして茹で，或は平鍋で燒いて食することが見えているが，一書にはワラビ粉のみを食すべからずとしている．

ワレモコウ（ワレモカウ）*Sanguisorba officinalis* L.（バラ科）——我國の山野に廣く生ずる多年生草本で，歐亞大陸に分布している．往々庭園にも栽植される．根莖は太くかたく往々彎曲し，莖は直立し高さ1m以上に達し，細く硬く，葉と共に無毛である．葉は長い柄を有し互生し，奇數羽狀複葉で，小葉は5–13箇短柄があり，長楕圓形で淺心脚，緣邊に齒牙を有し，托葉も葉狀で鋸齒がある．夏秋の頃，莖頂に枝を分ち長い梗の先に楕圓形の花穗をなし，暗紅色無柄の小花を密集する．花は穗の上端から咲き初め，4萼片は平開して徑3–4 mm，花瓣を缺く．雄蕊は4本，萼片とほぼ同長である．根部はサポニンの1種サンギソルビン（Sanguisorbin）を含み，また20–30%のタンニンを含み，これはエキス化も容易で利用價値があり，一時タンニン原料として着目されたこともある．漢方では根部を採り乾したものを「地楡」（チユ）（Radix Sanguisorbae）と呼び，止血收斂藥とし，1日15–30 gを煎じて吐血，喀血，月經過多に用いる．祛痰や止瀉の効もあり，含嗽藥とされ，また慢性腸カタルに連用するとよいという．葉も5–7%のタンニンを含む．時に春若葉を茹でて水に浸し苦味を除き，和え物，浸し物として食べる．本屬には我國に近似の數種が自生し，花穗の長いもの，花の白いもの等があるが，根莖は何れもほぼ同量のタンニンを含んでいる．北アルプス北部の高山に產するカライトソウ *S. hakusanensis* Makino は，全體少しく蒼白をおび，小葉は廣大，夏長さ5–12 cmに達する花穗を垂れ，5–11本の雄蕊は1 cm餘に及んで長く花外に抽出し，紫紅色のふさの樣で美しい．その栽培品は觀賞用として庭園に栽植され，また切花にも用いられる．



第445圖　ワレモコウ

ワングル *Cyperus exaltatus* Retz.（*C. Iwasakii* Makino）（カヤツリグサ科）——カンエンガヤツリ（灌園ガヤツリ），カンソウ（莞草）．痩長な多年生草本であるが栽培上は1年生草本として取扱われる．高さ1–2m，莖は鈍3角柱となり表面に光澤がある．基部から長い線狀葉を生じて莖を超出し，先端はやや垂れる．盛夏に莖頂から幅1 cm，長さ50 cm許りの

總苞葉を展げ，その中央から長短不同の十數箇の梗を放射狀に出し，各の分枝の先端附近に褐色紡錘狀長さ 6-9 mm 許の小穗を互生する．小穗上には穎花を密に互生し，穎は半透明で中肋は先端に微凸頭をなす．穎花には穎を超出する 3 雄蕋と，3 裂した柱頭を有する長い花柱を具える．瘦果は灰褐色，微小で長さ 1 mm 未滿，楕圓體をなす．

古來朝鮮で廣く栽培され，ワングルの名で知られた．中でも喜山（慶尙北道），江華島（京畿道）は有名な產地である．栽培容易で，生育が早く，夏の短い北地にも適し，イ*やシチトウイ*に優る莚蓆料を提供する．上野不忍池に本種が自生狀態になつているのが發見されたのは明治25年であつて，牧野富太郎博士によれば水鳥が朝鮮から種子を運んだものらしいという．昭和の初年から本邦でも，北海道，東北地方，新潟縣等の所々に栽培が始められた．4 月の上中旬に水田中に揚床を設けて播種，敷藁し，15 cm 許に生育した時に 1 本ずつ坪當り 70-80 本を水田に本植する．穗を生ずる頃には倒伏しやすいから，繩を張り廻らして支え，8 月中旬頃晴天の日に根際から刈取る．先ず，莖と葉とを分け，莖は普通 2-6 條に裂いて日乾する．勞力はかかるが入念に調製するには，莖の皮を剝いで乾燥する．剝いだ皮は乾燥するに從つて內卷して圓筒狀となり纖美な編料となる．纖維は皮部に多いが，髓部にも散在しているため，髓もまた丈夫で利用され，綱索，絲とし，園藝上はラフィヤ（→ヤシ）の代用とする．

葉は蓆，繩，笠，草履等とし，丁寧に調製した皮は朝鮮產の精巧な編物細工に用い，簾，花莚，煙草入，夏帽子，ハンドバッグ等用途が廣い．→改